2024 年度　FD 活動の取組み

1. FD・SD 研修会

テーマ：教学マネジメントを回すためのディプロマポリシー（DP）策定のポイント
講師：岡安智美氏（株式会社ベネッセ i-キャリア）
司会：新納卓也（副学長）
主催：武蔵大学 FD 委員会
対象：専任教職員
開催日時：2024 年 7 月 11 日（木）15 時 30 分～16 時 30 分
開催形式 ZOOM によるオンライン開催（やむを得ない事情により研修会を欠席した教職員は後日研修会の録画をオンデマンド方式で視聴）

【FD・SD 研修会の概要】

株式会社ベネッセ i-キャリアの岡安智美氏を講師としてお招きし、「教学マネジメントを回すためのディプロマポリシー（DP）策定のポイント」というタイトルでご講演をいただいた。ベネッセ i-キャリアは、「まなぶとはたらくをつなぐ」という企業理念のもと、大学生が在学時代に学んだことが評価される仕組みを構築し、自身の成長と社会での活躍のためにより主体的な学びを促す取り組みを進めておられる企業であり、本学においても支援サービスとして提供されている問題解決力を測定するアセスメントテスト「GPS-Academic」を 2023 年度より導入している。

今年度本学では 2027 年度カリキュラムにあわせて各学部で「卒業認定・学位授与の方針」（DP）、「教育課程編成・実施の方針」（CP）の策定が求められており、その作業を進めるにあたって考慮すべき点について理解を深める大変良い機会となった。ご講演の詳細は以下の通りである。

まずはじめに教学マネジメントにかかわるこれまでの変遷であるが、2018 年高等教育のグランドデザイン答申の中で、2040 年の社会を展望し、予測不可能な時代を生きる人材育成、学修者本位の教育への転換することの重要性がはじめてうたわれ、それを受けて 2020 年に高等教育機関が求められる教育を担保するための教学マネジメント指針が発表された。また同時期には認証評価での「適合・不適合」認定の義務化、さらに 2022 年には大学設置基準の改訂が進み、大学教育における質保証にかかわる意識が確実に高まってきていることが確認できる。

教学マネジメント指針では、5つの項目、①「三つの方針」を通じた学修目標の具体化、②授業科目・教育課程の編成・実施、③学修成果・教育成果の把握・可視化、④教学マネジメントを支える基盤、⑤情報公表、について、それぞれ「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つの階層毎に取り組みの方針が示されているが、なかでも「学位プログラムレベル」の重要性が強調されている。この点は 2022 年に改正された大学設置基準でも同様で、3ポリシーに基づく内部質保証による教育研究活動の不断の見直しにおいても学位プログラムを点検の主眼とすることが重視されている。各大学には、その点に留意するとともに、各学部の点検評価についての考え方や尺度を大学内で共通にすることが求められている。

実際に教学マネジメントを回してゆくために、学習データを可視化し、データ分析をおこない、そのデータを学生に還元するにあたって大切なのは、教職協働の体制作りである。具体的には教学マネジメントを推進する組織が全部局と連携が取れる組織であること、その組織に実際に教育改善に取り組む事務者レベルのメンバーを入れること（タスクフォース型の組織とすること）が望ましいと言える。

教学マネジメントの具体的な運営プロセスは、(1) DP を起点に具体的な学修目標を設定・各科目と DP の関係を整理 (2) アセスメントプランを策定 (3) 学習成果の可視化を実施し分析をおこなう (4) 分析

をもとに教育改善・改革を実施（5）取り組みについての情報発信 に分けられる。運営時の重要課題としては、学修者本位という視点の導入、多元的な学習成果の可視化を目的とした評価手法の検討、学生自身にとって意味のあるものとするための仕組みづくり等が挙げられるが、基本的なポイントとして、指標や評価方法などを複雑にしすぎないこと、学生・教員に伝わりやすい表現にすること、学生の DP 理解と自身の学修の振り返りに資すること等に留意が必要である。

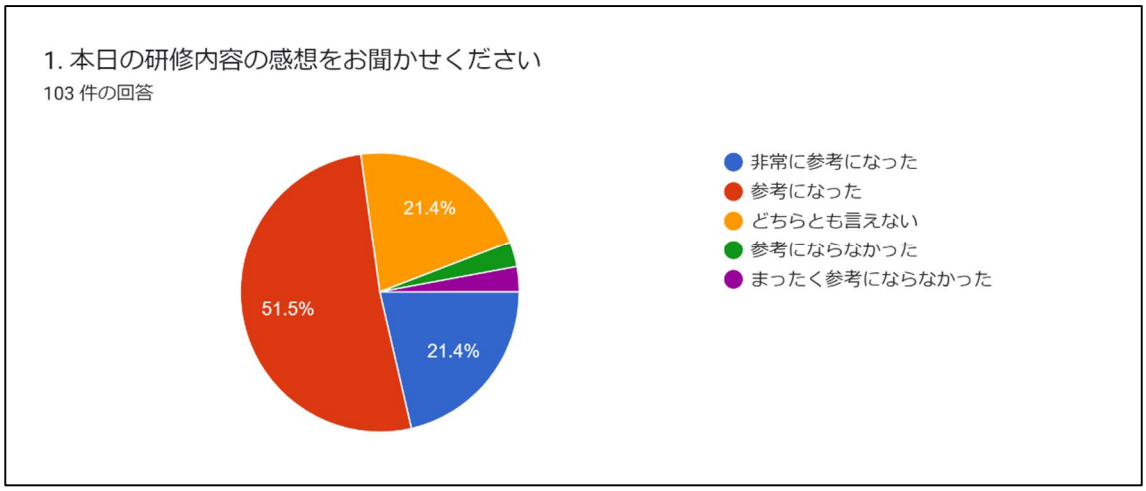
最後に他大学の事例紹介がおこなわれ、身につけるべき力を DP に具体的に示し、それをさらにシラバスおよび学修ポートフォリオに反映させている事例、全学 DP からキーワードを抽出し、キーワードを基に学修成果の分析をおこなうにあたり、情報収集・検証を担当する部局を決めその活用目体を明文化している事例、DP の内容について学生・教員がともに理解できるようにする工夫として、身につけるべき力の具体的な説明を提示したり、初年度教育の現場を利用している事例などが好例として紹介された。

【FD・SD 研修会受講者アンケート回収結果】

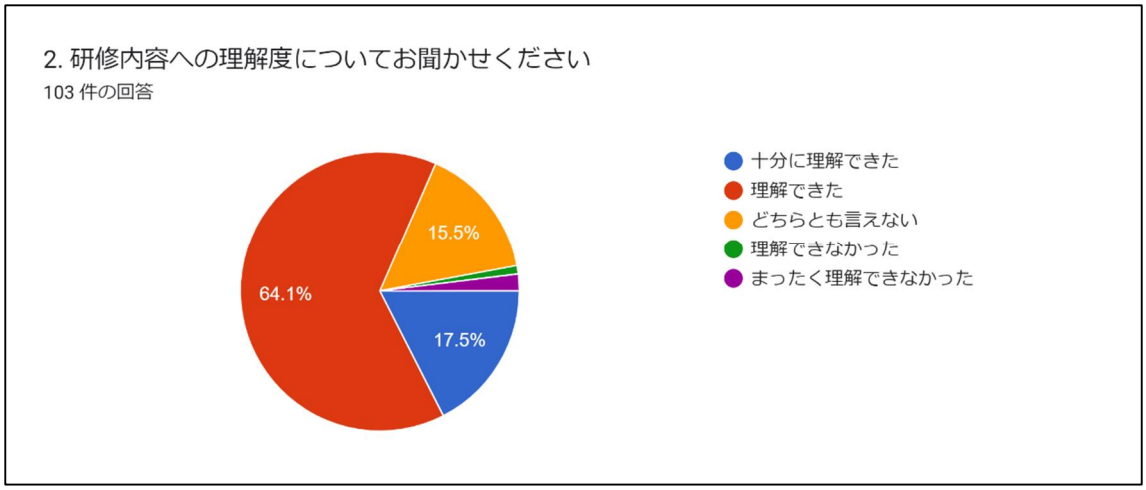
アンケート回収結果の詳細は以下の通りである。

なお日本語を母語としない教員にとっては言語の壁もあり、研修会の内容を理解できなかったとの意見が昨年に引き続き寄せられており、本研修会のみならず本学の様々な会議や打ち合わせでの複数言語化の必要性をあらためて認識することになった。

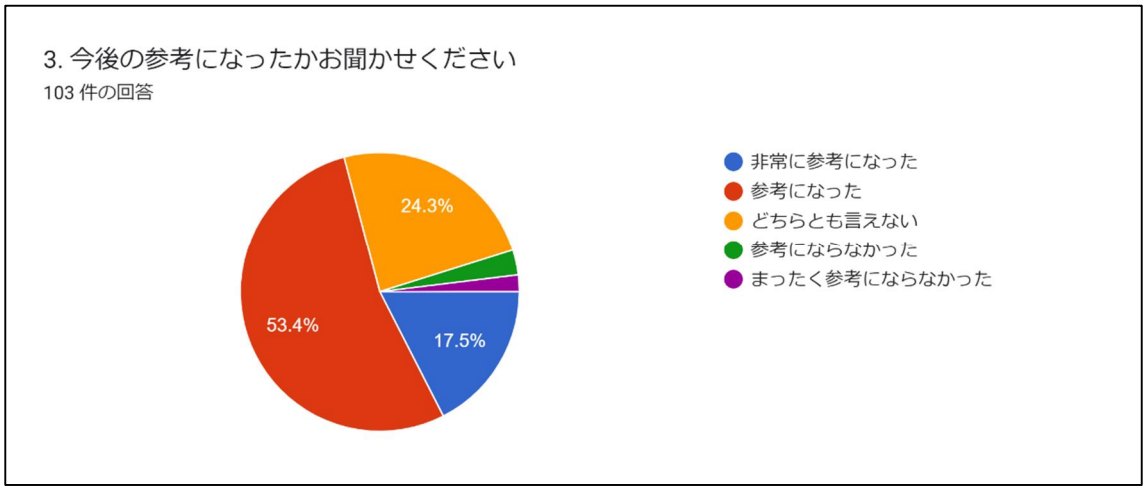
質問 1. 本日の研修内容の感想をお聞かせください。



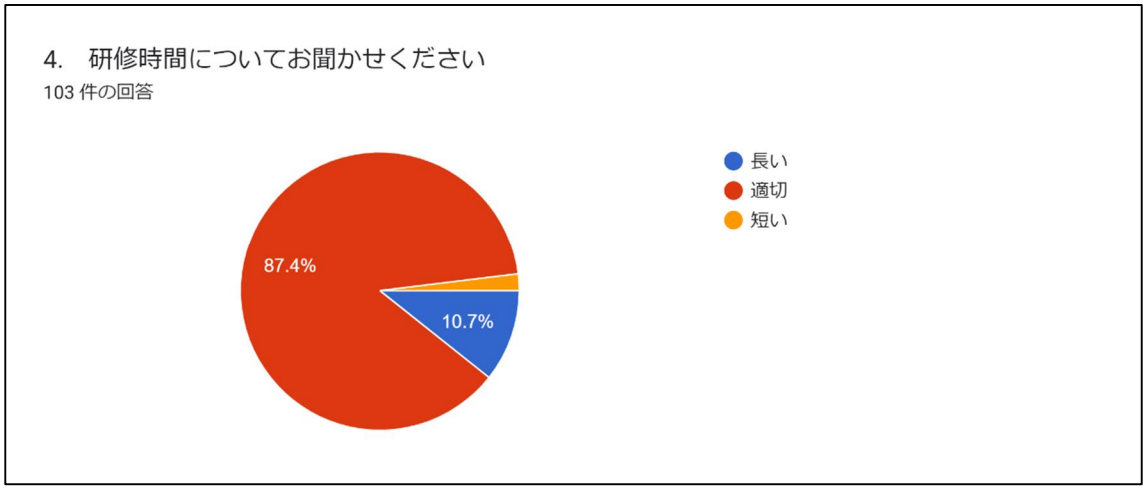
質問 2. 研修内容への理解度についてお聞かせください。



質問 3. 今後の授業改善の参考になったかお聞かせください。



質問 4. 研修時間についてお聞かせください。



質問 5. 次年度以降取り上げて欲しいテーマがあればお聞かせください。

- 学生生活の質の向上など，学生目線の話。
- ハラスメント防止のための啓発。
- 27 カリに寄与するテーマ。
- 大学教育における AI との付き合い方など。
- 教学マネジメントに関する理解を教員が深めるための取り組みなど（他大学の事例など）。
- 他大学の方をお招きして、その大学でおこなったことを話してもらう。
- 本学で行ったアンケート結果について、統計学的に詳しい分析を聞かせてほしい。
- 教育や教務で日々苦労していることについて「ハウツー」的に役立つ知識やコツを提供してくれるような内容が望ましい。
- オンライン授業の活用。
- 教育方法やアカハラパワハラの実例などの身近な話題。
- 合理的配慮の捉え方と支援方法、配慮学生を支援する教職員への大学側の支援について。
- 教職員の職務改善（効率や効果）につながる取り組みについて。

2. FD フォーラム「学生と共に考える授業改善」

全体司会:桂　元嗣(FD 委員長、人文学部教授)
日時:2024 年 10 月 31 日(木) 17 :20～18 :20
場所:ZOOM によるオンライン開催
テーマ:武蔵大学の教育(授業)に対する改善点について

〈趣旨と概要〉

武蔵大学 FD フォーラムは、テーマに基づき学生が授業改善に向けた提案を行い、それを受けて学生と教職員がともに授業改善に関して検討する企画である。FD 活動の中でも、特に学生を主体とするものであり、学生アンケート等では知ることができない生の声を受けて、教職員・学生が一体となり、課題について検討することを目的としている。本年度は、高橋学長の開会挨拶後、Zoom のブレイクアウトルームを用いて、それぞれの学部と教職課程に分かれて実施された。各学部および教職課程からは合計 26 名の学生にご登壇いただいた。実施概要、学生からの提言(発表タイトル・テーマ)は以下の通りである。

1. タイムスケジュール

時間	内容
17:20 [5 分]	開会挨拶 (高橋学長)
17:25 [30 分]	学部毎に分かれて学生からの提言 ※1 グループ 10～15 分程度
17:55 [25 分]	ディスカッション (進行:各学部 FD 委員)
18:20	閉会(ディスカッション終了次第、学部ごとに閉会)

2. 学生からの提言

所属	所属学科	学年	氏名	発表タイトル・テーマ
経済学部	経済学科	2	川北　晟矢 福島　優太	４つの改善点 (履修登録／出席／授業内容／授業時間)
		3	枳原 一斗 増山 拓朗	学生の受講環境を向上させるためには
人文学部	ヨーロッパ文化学科	4	永田 美咲	総合科目の履修登録・授業時間 ヨーロッパ文化学科からの視点
	日本・東アジア文化学科	3	小助川 世匡	学生全体の質を高める
	日本・東アジア文化学科	3	時田 慶斗	講義に対する学生の集中 白雉祭や OC でゼミ内容の紹介
	日本・東アジア文化学科	3	新谷 拓也	授業評価アンケート／隔年開講／セクハラ・パワハラ問題に向けた対応

社会学部	社会学科	3	林（リム）先生のゼミ生全員（９名）	学部学生への聞き取り調査をふまえた授業改善案／１年生ゼミの改善提案
国際教養学部	国際教養学科(EM 専攻)	3	梁瀬 悠生 中村 友哉 佐久間 久子	EM の現状／アンケート調査／学生が満足している点／EM が望んでいること
	国際教養学科(GS 専攻)	2	塩田 隼斗 佐藤 紗矢佳 伊藤 裕貴	RW、SL クラスについて／専攻科目／／授業の種類／外国語現地実習
教職課程	金融学科	4	内田 くるみ	「商業」「情報」の学習指導案／採用試験・免許／先輩の模擬授業
	ヨーロッパ文化学科	3	金子 友香	男女呼び分け／集団での模擬授業／概説科目
		3	藤野 愛生	アンケート結果：授業曜限／授業内容／課題／費用／手続き・事務

昨年度に引き続き、それぞれの学部・教職課程ごとのブレイクアウトルームに分かれ、所属学科・教職課程特有の事情をふまえた提言と議論が行われた。結果として改善点について学生・教員双方から具体的で活発な議論がなされていた。当日の様子は動画で記録し、後日専任教員に対して公開した。学生の提言の中には全学的に検討すべき改善点も含まれており、所属と異なる学部や教職課程における提言も動画を視聴することで確認できる。フィードバックの方法については動画の公開だけで十分なのか、検討の余地があるが、教員からの反応をふまえつつ今後の FD フォーラムの運営に生かしていきたい。次年度についても基本的には今年度と同様の方法を引き継ぐことでよいのではないかと考えている。

（文責：桂元嗣）

3. 教員 FD 研修報告

＜研修の概要＞
名称：令和6年度 FD 推進ワークショップ【オンライン参加コース】
日程：2024 年8月5日（月）10:30～17:10
開催方式：オンライン（Web 会議システム Zoom）
主催：一般社団法人　日本私立大学連盟
報告者：菊地映輝（社会学部・准教授）

＜研修の目的＞
私立大学が持続的に発展し続けるためには、組織的な FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動が不可欠である。FD の活動内容は主に、全学的な教学マネジメントの確立・改善を目標とする「マクロレベル」、三つの方針の組織的推進やプログラム、カリキュラムの改善を目標とする「ミドルレベル」、授業改善の支援を目標とする「ミクロレベル」と3つのレベルに分けられ、その範囲は広範であり、FD 活動は恒常的であることが求められる。本ワークショップでは、主に「ミクロレベル」の FD に焦点を当て、模擬授業を通じ、経験や専門分野、所属大学の枠を超えた参加者間で意見交換を行うことにより、自身の授業を振り返るとともに、学生の学びや参画を促進する授業運営のヒントを探ることを目的とする。

＜プログラム＞
10:30-10:50　開会・オリエンテーション（全体説明）
10:50-12:00　グループディスカッション
12:00-13:00　休憩
13:00-15:45　模擬授業・グループ内ふりかえり
15:45-16:00　休憩
16:00-17:00　全体発表
17:00-17:10　閉会・事務連絡

＜研修の概要＞
まず参加者全員を前に、開会・オリエンテーション（全体説明）が行われ、本ワークショップの目的や心構えが共有された。その上で、午前はグループディスカッションとして、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使用し、受講者が少人数分かれて、授業についての問題意識や工夫等を共有し、ディスカッションを行った。お昼の休憩を挟み、午後は引き続き同じグループにて、一人 15 分ずつの短い模擬授業を行った。模擬授業資料は各自が事前に用意してきており、短い中にも各自の工夫が随所に見られた。各自の模擬授業が終了した後には、それに対して他の受講者からのフィードバックを行うふりかえりの時間も設けられていた。その際には、相手の授業スタイル等を否定することがなく、ポジティブな要素の指摘を特にするということがなされた。また、そこで出された指摘や議論内容は、16 時からの全体発表の場で、グループの代表者がワークショップの受講者全員に共有し、それを踏まえて全体でのディスカッションも行われた。
グループディスカッションおよび模擬授業で一緒のグループとなった他大学の教員は、運営側の配慮から同じ分野の研究者ではなかった。そのことにより、まったく異なる分野において、どのような授業が展開されているのか、またどのような資料が準備されているのか等の学びが多かった。同時に、分野を越えて、授業時に意識することや教員が直面している悩み等に共通性があることも分かり、その点も大きな学

びとなった。

報告者がグループディスカッション時に参加したグループ D では、各受講者の意識が高かったためか、闊達な議論がなされ、全体発表の際にも多くの気づきを全体に共有することができた。そのことが高く評価され、運営側の委員であった参加者から「ワークショップ後、多くの委員からＤグループのモチベーション高さを賞賛されました。私が 10 年近く委員をやっていますが、グループ活動だけではなく全体発表でも活躍されていたこと、嬉しく思いました」との評価を得た。本ワークショップへの参加を通じ、現在報告者が実施している授業スタイルは妥当なものであろうというフィードバックを今回得た。引き続き、より学生にとって学びの大きい授業の実施に邁進していきたい。

以　上

4. 教務 FD

「学修ポートフォリオの導入」

新納 卓也（全学教務委員長）

2024 年度の教務 FD では、大学企画課を中心に準備が進められた学修ポートフォリオの導入に向けて、過年度からおこなっている体制の整備に引き続き取り組んだ。

学修ポートフォリオの元となるカリキュラム・マトリックスについては、2020 年度に教務 FD としてカリキュラムのナンバリングおよびカリキュラム・マトリックスを策定し、教育の質向上を図る基盤を整備したが、2024 年度には現行カリキュラムの全学 DP の見直しをふまえ、カリキュラム・マトリックスのさらなる充実を目指し、改訂と更新作業を実施した。あわせて、これまで策定が進んでいなかった教職課程科目及び学芸員課程科目についても今回新たにカリキュラム・マトリックスを策定し、全体的な整合性を高めた。

結果、9月の履修登録後より学修ポートフォリオを 2022 年度以降入学の学生に向けて利用可能とすることができた。学生は、学生ポータルサイト（3S）より、確認することができるが、本学の学修ポートフォリオのページには以下の説明がなされている。

> 学修ポートフォリオとは、皆さんが武蔵大学での教育活動を通じて、本学のディプロマ・ポリシー(DP)に定められた能力がどの程度身についたかを客観的に把握できるツールです。また、本学におけるポートフォリオは①「成績をもとにした全学ディプロマ・ポリシー(DP)の達成度」②「GPS-Academic スコアをもとにした全学ディプロマ・ポリシー(DP)の達成度」の 2 種類があります。①「成績をもとにした全学ディプロマ・ポリシー(DP)の達成度」については、大学公式ホームページ等に掲載されている「カリキュラム・マトリックス」に示されている各科目において身につく能力をもとに学修度が算出されています。

なお、アクセスが集中する履修登録の際はシステム負荷軽減のためメニューを閉じているが、理想としては、履修登録時に各自が学修ポートフォリオを参照し、自身の学修状況を確認しながら、自らの強みや課題を把握し、より主体的かつ戦略的に科目選択を行える仕組みを整備することである。この実現に向けて、2025 年秋学期の履修登録の際には、並行して運用できるよう調整を進めている。

また学修ポートフォリオの精度向上に向け、定期的な見直しや新規科目設置時の更新作業を経常業務に組み込むことで、運用の効率化を図ってゆく必要がある。また、このような取り組みを通じて、教員にもカリキュラム・マトリックスを意識し、活用してもらう機会となることが望まれる。

今後も大学企画課との連携を強化し、運用状況を検証しながら、学生の学びを支援する体制を充実させる予定である。